

ミニ講義

- 8 / 1 午前・桜井教授（代謝分析学）「体の中の元素のはたらき」
 8 / 1 午後・竹内教授（薬物治療学）
 「胃袋のサイエンス：“アルカリ分泌”
 - 胃酸による自己消化に対する防御 -」
 8 / 2 午前・高田教授（薬物動態学）「薬が効くまでの体の中での旅」
 8 / 2 午後・野出教授（薬品製造学）「薬をつくる」



ミニ講義

体験実習

1. 身のまわりのフリーラジカルを測る
 ハーブや食べ物の電子スピン共鳴（E S R）（代謝分析学教室）
2. 薬物の溶解性試験を体験（薬物動態学教室）
3. メンソレータム軟膏づくり（臨床薬学教育研究センター）
4. 動物細胞のDNAを観る（生化学教室）
5. 果物の香りを合成する（機能分子化学教室）
6. 1) クラゲの蛍光蛋白質（G F P）でマークしたラットの蛋白質をヒトの細胞で見る
 2) S D S - アクリルアミドゲル電気泳動による蛋白質の分析（分子生体制御研究部門）



体験実習

研究室見学

*自由に研究室を見学。



施設見学

*在学生在がキャンパスを案内。

食堂開放

*大学の食堂で食事体験。

相談会

「教員への相談コーナー」「就職に関する相談コーナー」「6年制に関する相談コーナー」「在学生への相談コーナー」を設け相談に応じた。

2004年 オープンキャンパス アンケート集計結果

参加者人数

（回答率 44.4%）

	受験生	社会人	付添者	合計
8月1日(日) 午前	398名	7名	148名	553名
8月1日(日) 午後	184名	2名	74名	260名
8月2日(月) 午前	200名	0名	41名	241名
8月2日(月) 午後	163名	5名	20名	188名
合計	945名	14名	283名	1,242名
昨年度的人数	1,086名	12名	289名	1,387名

アンケート回答者学年別等人数

	高校3年生	高校2年生	高校1年生	予備校生	社会人	その他	合計
8月1日(日)	151名	114名	19名	34名	7名	8名	333名
8月2日(月)	86名	88名	11名	20名	7名	6名	218名
合計	237名	202名	30名	54名	14名	14名	551名



相談会

アンケート回答者住所（都道府県）別人数

近畿(460)	北海道・東北(3)	関東(5)	中部(39)	北陸(12)	中国(18)	四国(11)	九州・沖縄(3)
大阪府 155	北海道 0	茨城県 0	長野県 1	新潟県 1	鳥取県 2	香川県 1	福岡県 2
京都府 96	青森県 0	千葉県 0	山梨県 0	富山県 5	島根県 0	徳島県 6	大分県 0
兵庫県 71	秋田県 1	栃木県 0	岐阜県 3	石川県 1	岡山県 2	愛媛県 2	宮崎県 0
滋賀県 88	岩手県 0	埼玉県 1	静岡県 6	福井県 5	広島県 11	高知県 2	佐賀県 1
奈良県 47	山形県 1	東京都 3	愛知県 14		山口県 3		熊本県 0
和歌山県 3	宮城県 0	神奈川県 1	三重県 15				鹿児島県 0
	福島県 1	群馬県 0					長崎県 0
							沖縄県 0

アンケート内容

本学に関心がある理由をお答え下さい

(複数回答可)

薬学の勉強	385
薬剤師国家試験	348
自宅から通学できる	188
研究	177
就職	165
京都で勉強したい	129
伝統	113
家族に薦められた	78
入学金・授業料	76
高校の先生に薦められた	14
その他	11
予備校・塾の先生に薦められた	3



本学のオープンキャンパスを知った情報源についてお答え下さい

インターネット(本学のホームページ)	243
高校の進路指導および資料	140
先輩・知人・友人	92
オープンキャンパスのチラシ等	81
家族・親戚	41
受験雑誌または新聞	38
予備校の説明会および資料	23
その他	4



研究室見学

オープンキャンパスの企画で良かったと思うことは何ですか (複数回答可)

大学紹介	211
ミニ講義	196
体験実習	167
大学グッズなどもらったこと	124
研究室見学	114
施設見学	105
相談会	43
その他	6

本学の入学試験を受験するとすれば、どれを受験されますか

B方式入試(本学独自)	340
A方式入試(センター前期)	164
推薦入試	152
C方式入試(センター後期)	33
社会人特別選抜入試	14

具体的に良かったと思うことは...

・体験実習を体験できたこと	50
・研究室を自由に見学でき、詳しく説明してもらえたこと	40
・大学紹介の説明がわかりやすかったこと	33
・キャンパス内の雰囲気がわかった・きれいだったこと	27
・在学生にいろんな話を聞いたこと・在学生が親切だったこと	26
・ミニ講義を体験できたこと	23
・薬学について興味・知識を得られたこと	18
・食堂が利用できたこと	13
・相談会で親切に相談にのってもらえたこと	12
・願書や過去問題・解答例集・シャーペンをもらったこと	10
・いろんな施設を見学できたこと	8
・6年制について詳しく聞いたこと	4
・歴史や実績を知ることができたこと	3

今年1月号から一年間、本学創立120周年を記念して特集してきた「卒業生からのメッセージ」拡大版もいよいよ本号で最終回を迎えることになった。

この一年間に総勢26名の卒業生の方々から貴重なメッセージが届けられた。

いずれも母校を慕う尊い気持ちから投稿いただいたものだ。薬学との出会い、薬大での学生時代をどのように過ごしたか、そして如何に今の職業につなげていったか、短いながら熱い思いの詰まったメッセージばかりだった。最終号の今回、投稿いただいた卒業生は親子孫三代にわたり本学の卒業生という大先輩から、この3月に卒業したばかりの方まで歴史と伝統を誇る京都薬科大学らしい顔ぶれだ。今回も情熱あふれるメッセージを届けていただいた。今後の指針として大いに参考にしてほしい。

最後になりましたが、投稿いただいた卒業生の皆さん、貴重なメッセージありがとうございました。

“CREATION” 日々新たに...!



宮川 喬行

昭和39年卒
カキノキ薬局
京都漢方研究会理事長

本校には親子3代でお世話になりました。卒業は昭和39年。いまから40年前のことですが、タイムトンネルで大学時代の頃に帰ってみても、当時の楽しいこと、苦勞した事が走馬灯の如く思い出され、青春時代の良き礎を築いていただいたと感謝しています。

当時は、今から思えば“大学らしからぬ学校”で、一学年180名程度の寺子屋風?、家庭的な雰囲気、教職員も親近感あふれる先生ばかりでありました。おかげで勉学は二の次、4年間はクラブ活動(ラグビー)ざんまいの学生生活をすごささせていただきました。

現在でも熟年会と称して50歳以上のラグーマンが毎年集まり当時の感激を味わっております。今でこそ薬学教育の修業年限が4年プラス2年指向になり、卒業後修士課程に進学される方が大部分ではありますが、当時は高度成長期の渦中、大学での教育も薬学教育よりむしろ薬剤師を育成のための教育であったようで、卒業後の就職も企業が大

多数、大学や研究所の志望はごく稀なようでありました。私も、家業が薬局のため卒業後は就職するものと安易な考えでおりましたが、4年間在学中での不勉強を鑑み、家業を継承するまでに何か心残りの点があり、知らず知らずの内に漢薬研究の道に進路変更してしまいました。

人生180度の転換で周囲は大慌てでありましたが、気が付けば某国立大学の研究室の門を叩き、何とか漢方医薬学の世界に身を置くことになりました。

爾来、30年間漢方医薬学研鑽のため大学での研究生活や臨床に携わり現在、21世紀における新しい漢方医薬学を習得できる研究の場として、また、東洋医学と日本の医薬学の背骨である漢方の真髄を直接学ぶ場として『京都漢方研究会』を主宰しております。

現代医学の医療現場において、その疾病構造が著しく変化し疾患も多種多様の様相を呈している今日、薬師(くすし)の原点に帰り東洋医学的立場から薬剤師職能を再検討してゆくのが我々漢方を勉強しているものの使命であるとの考えで14年間大学卒業生が中心になり毎月一回愛学館において研究会を開催しております。

近年、医療の質の向上を求める国民意識の高まりとともに、薬学教育を取り巻く環境も大きな変革期を迎えています。質の高い薬剤師養成が叫ばれている今日、在学生の皆様には、よく学び、そして考え、自ら実践して学問、研究、クラブ活動に青春の可能性をぶつけて思い出多き学生生活を過ごして頂くことを希望します。

新しい領域にチャレンジ



吉田 誠

昭和 60年卒(薬品化学教室)
昭和 62年大学院修士課程修了
平成 2年大学院博士課程修了
(薬学博士)
協和発酵工業株式会社
医薬研究センター

まさに『光陰矢のごとし』で、大学を卒業して20年、社会人として15年目を迎えました。

私は大学4年時に在籍した薬品化学教室で出会った生理活性ペプチドに対する興味が大学院に進学するきっかけになり、研究生生活をスタートさせました。今思えば、当時の自分は研究者としての将来像も持たず、ただ研究という言葉への憧れだけで決めてしまったように思います。そのため、大学院の5年間はその憧れとは裏腹に苦労の連続でした。これは単に計画、実験、データ解析の一連のプロセスが未熟であったからだと思います。その間、至らぬ部分を多くの方に支えていただき、挫折しそうな時期もありましたが、木曾教授のご指導の下、何とか学位を授与していただきました。

さて、入社後は大学院時代の研究を買われてペプチドの合成プロセスの開発に始まり、留学を経て創薬研究に携わるようになりました。ペプチド合成に携わっていた時代は会社における研究に加えて留学という何に対しても代え難い経験ができました。即ち、Merrifield先生との出会いは広い視野に立ってものを見ることに気づかせてくれました。また、海外で知り合った友人とも会うたびに共通の話題で盛り上がり、今もその関係は続いています。そう、あの頃が私のHigh Light Timeだったと思います。帰国後はペプチドから離れて創薬研究に従事しました。私にとってペプチドから離れることは得意分野ではない未知の技術・領域にチャレンジすることを意味します。当然、技術的な面で苦労もありましたが、その苦労を重ねた分、開発化合物まで到達した時の喜びは大きいものでした。また、ペプチド合成と関連のある技術Combinatorial Chemistryという新しい技術が創薬研究の中で注目されたことも私にとっては幸運でした。しかしながら、私の社歴として研究生生活は10年、あっという間というよりは全力で過ごした10年でした。現在、研究センター長のスタッフとして研究推進部に席を置き、探索から開発まで研究を側面から支援し、研究マネジメントの観点で企業研究をしています。会社にいる限り、研究現場を主任研究員、所長として長く携われる人

はほんの僅かです。研究現場を飛び出してみても社のダイナミックな流れを垣間見ることができる世界も見方を変えれば興味深いものです。

皆さん、狭い世界に閉じこもることなく広い視野で物事を見てください。失敗を恐れず新しい領域にチャレンジし、自分の可能性を試してみてください。努力を怠らなければ道は必ず開けます。

ゼネラリスト、スペシャリスト



細見 光一

平成 3年卒(薬品製造学教室)
平成 5年大学院修士課程修了
財団法人 神戸市地域医療振興財団
西神戸医療センター 薬剤部

現在、私は病院薬剤師として勤務しています。業務内容は、調剤のほか、無菌室での注射薬調製、病棟での服薬指導業務など、多彩な業務展開に対応し、薬剤師がチーム医療の一員として活動しています。そのような状況の私から、薬剤師としての考え、大学生活の過ごし方など、徒然なるままに書き綴ります。

現在、社会が求める薬剤師は「薬のゼネラリストであり、スペシャリストであること」だと思います。薬のゼネラリストとして広範囲の知識を持つことで、患者様や医療スタッフに対してあるレベルで会話ができるため、自然と社会的になれることが強みとなります。また、薬のスペシャリストとして努力と時間を費やした自信が精神的に強くさせると思います。そのような薬剤師になるには、普段から、広範囲にわたる知識と誰にも負けないといえる知識を蓄積していく態度が必要になると思います。

私の大学生活を振り返ると、学部時代生ではヨット部でのクラブ生活に、院生時代では研究生生活に、とにかく一生懸命に取り組みました。私の大学時代の恩師は、薬品製造学教室の野出学教授です。野出先生が本学に就任なされたときの1期生として、非常にかわいがって頂きました。また、当時助手でおられ、現在は薬学教育研究センターの井上武久教授(ねこさん)にも、公私ともどもお世話になりました。薬品製造学教室では、野出先生、井上先生のほか、多くのスタッフのご指導で鍛え抜かれました。冒頭に、私の病院薬剤師の業務を紹介しましたが、その他に研究活動として、学会発表、論文投稿などもさせて頂いており、学

生時代に培われた賜物と感謝しています。

既に多くの諸先輩方から、「何かに打ち込む」「コミュニケーション能力の習得」「いろいろな経験をする」「多くの人に接する」など、将来に向けて様々なアドバイスを頂いていると思いますが、いずれも全くその通りだと思います。多くの機会を通して刺激を受け経験を積むことは、広い観点での思考や専門性の向上など、社会での様々な境遇で力を発揮すると思います。皆様のご活躍を祈念しております。



自分で選んだ道だから 素敵な人生を !!



牧田 恵理(旧姓 井上)

平成 8年卒(健康科学教室)

平成 14年 修士(工学)

(防衛大学校理工学研究科)

防衛庁 航空自衛隊 薬剤

官

(現在 航空医学実験隊勤務)

「合格するわけがない」と、冷やかしかつ半分、好奇心半分で受験した防衛庁(航空自衛隊)に採用され、あっという間に8年が過ぎてしまいました。この間、少し変わった薬剤師として過ごしてきました。まず簡単に自衛隊式でこれまでの経歴を紹介したいと思います。

平成 8年 4月 入隊 幹部候補生学校(奈良)

薬剤師である前に自衛官であるため、幹部自衛官としての教育や様々な訓練(射撃や遠泳、武道、体育、行軍等、もちろん戦闘訓練も!!)を10ヶ月間受ける。

平成 9年 2月~ 6月 自衛隊岐阜病院勤務(岐阜)

学生時代、病院実習に行かなかったため、調剤を初めて経験する。

平成 9年 6月~ 10年 6月 自衛隊中央病院(東京・世田谷)にて実務研修

陸・海・空薬剤官が集合し、調剤をはじめ製剤、病棟実習、調達・DI業務等を研修する。

平成 10年 6月~ 12年 3月 自衛隊岐阜病院勤務(岐阜)

主に薬局業務を行う。病院勤務の中でも多くのことを学べたが、もっと勉強したい?!と思い、防衛大学校理工学研究科(大学院)の受験勉強を始める。

平成 12年 4月~ 14年 3月 防衛大学校理工学研究科学生(横須賀)

無事に合格し、2年間の学生生活(モノ言わぬポリマーと睨めっこ ネットワークポリマーの熱分析)を送る。

平成 14年 3月~現在 航空医学実験隊勤務(東京・立川)

まだまだ勉強不足ですが、念願だった航空医学に関する研究をさせてもらっています。

注!) 薬剤官にも様々な勤務場所、勤務内容がありますので、これはほんの1例です。

この8年間において、大学時代バレーボール部で培った体力と精神力、また特に教室で得た「言葉や形では表現できない目に見えないもの」が大いに役立っています。目に見えないものを敢えて言うなら、人の温かさや人と触れ合う楽しさ、生きることの素晴らしさでしょうか。身をもって体感したい方は、浜崎先生率いる健康科学教室を訪ねてみてください!!

このように色々な経験をしてきましたが、今後も自衛官として、薬剤官として、そしてもちろん一人の女性として、妻として(入籍後1年半経過、妻らしいことはしていないけれど...)、さらに私の夢と野望は膨らむばかりです。次は、母になること、その次は...まだ極秘です!!こんな私を理解し、応援してくれる夫に恵まれ、幸せ者だと思います。(夫から書くように言われました)

当たり前のことかもしれませんが、薬剤師になることだけをゴールとせず、その後も夢や目標を持ち続け、回り道をして一歩一歩進んでいくこと。「絶対無理」と思うことでも逃げたりせず、挑戦すること。また、自分を支えてくれている多くの人達の存在に気付き、感謝の心を忘れないこと。これらはとても大切なことなのだと、つくづく思います。

最後に、私が自分に言い聞かせている言葉は、「明日は今日の自分を越える!」です。何事にも責任感をもって、失敗しても次に向かって一所懸命進んでいく...自分らしく素敵な人生を送りたいと思いませんか?!だって、自分で選んだ道なのですから!!

MRに向いているのは？



山際 淳子
平成 9年卒
(薬物動態学教室)
万有製薬(株)岡山支店

私は在学中、漢方医学研究部、薬剤学教室でお世話になりました。大学時代は、高校の続きの感覚で講義にほとんどすべて出席していたように思います。今思えば要領がよくなかったようにも思いますが、その当時は、「大学の授業料は安くないのだから授業は出席しなければ！」というコスト意識もあり特に苦にならなかったように思います。

卒業後は製薬会社に就職し京都でMRとして働いた後、社内の異動で内勤職を経て、現在は岡山で再びMRとして働いています。

実際にMRとして働いてみると、大変なことも多いですが、自分の仕事が少しでも先生の診療の役にたったと実感したときはうれしいものです。

MRは営業職ですが、売っている物の性格上、想像以上に知識を要求されます。現場ではいろいろな質問を受けて冷や汗をかくこともしばしばです。ただ、調べたり、勉強できる環境は整っているの、その点は恵まれていると思います。

ところで、MRはどういう人に向いているのでしょうか？この回答は少し難しいので、代わりにMRに向かないと私が考える要素を3つ挙げてみます。

人の話を聞くのが嫌い 他人に興味がない 決められたスケジュールに乗って仕事をしたい。

は対人関係の部分が大きい仕事なのでこのような方は少し困るかもしれません。はMRは流れてきたものを処理する仕事ではないので自分で決めなければ何も動きません。あとは「なせば成る」のがMRという仕事なのではないかと私は考えています。

どのような仕事を選ぶにしても、学生時代は働いた後より自分の時間が多いと思います。もちろん働いてからも自分次第で時間をつくることは可能ですが、今できることはできるだけ多くやっておけば後悔がないと思います。貴重な毎日を勉強その他に精一杯過ごしてください。

マイナスがプラスへ



森中 潤
平成 14年卒
(薬理学教室・分子生体制御部門)
ファルメディコ株式会社
ハザマ薬局 加美南店
管理薬剤師

僕の大学生活は、楽しいことよりも苦しくて辛いことのほうが多かったように思います。

浪人時代に突然病気になり、大学に入学してその病気が『心の病』であることがわかったのですが、それからも全然状態は良くなり、入学後2年ぐらいいは授業を受けるのもしんどく、毎日授業を受けてすぐ帰るか、医務室または病院に寄って帰るといったような生活を送っていました。そして3回生の時、2年間留年してしまい、もう大学をやめようかと考えるようになってしまいました。

しかしながら、医務室の先生や河野先生そして学生相談日の先生の励ましにより、「薬剤師国家試験に合格する」を目標に、また頑張ろうという気持ちを取り戻すことが出来ました。そして無事国家試験にも合格し、現在調剤薬局の薬剤師をしています。

僕が調剤薬局を選んだ理由は、薬局が患者さんにとって一番身近な存在であるのと、患者さんと話せる時間をたくさん持てると思ったからです。薬局では、僕自身大学時代たくさんの人たちに助けられ、たくさん困難を乗り越えることが出来たので、今度は僕が患者さんに還元する番だという思いで毎日働いています。

大学時代、あんなに一人で悩んでいたことをマイナスに思っていたのに、今薬剤師になって患者さんと接する時、大学時代辛く悩んでいた日々の経験がこんなに役立つなんて！とすごく驚いています。

だから、今大学生活でマイナスな気持ちを抱いている人は、その気持ちが絶対にプラスになる日が必ずくると信じて一日一日頑張っていって欲しいと思います。そして、これから薬剤師になるみなさんには、ぜひ患者さんの『心』がわかる薬剤師になって欲しいと思います。留年していた頃、池田前学長に「心臓という臓器はあっても、『心』という臓器はないのです」と言ったことを今でも鮮明に覚えています。これは、心臓はお腹を開ければ目に見ることができるが、『心』は目に見ることができない。目に見えない部分だからこそ、もっともっと大切にしなければならない部分なので

すという意味を込めて僕は言いました。今でもその考えは変わっていません。僕は、患者さんが『心』の扉を開け胸の内を話してくれる時、医療人をしていて本当に良かったとすごく感じます。だから、一人でも多くの患者さんの『心』がわかる薬剤師が増えてくれればと強く思っています。

学生から社会人へ



平田 智恵子

平成 15年卒
(薬物治療学教室)
滋賀県水口保健所

私は平成 15年 3月に本学を卒業し、現在社会人 2年目として働いています。大学へ入学してからあっという間に時が経ちました。学生時代、私を一番成長させてくれたのは薬物治療学教室へ所属していた約 1年間だったと思います。日々の実験や、教室のイベント等はもちろんのこと、試験や卒論、国家試験などのつらいことも含め、一緒に一日一日を過ごしていくうちに、単なる『友達・先輩後輩』というより、私の生活にはなくてはならない『仲間』になってきました。一人一人が個性をもち、役割をもち、誰一人が欠けても成り立たないような雰囲気がありました。その中で自分がどれだけみんなに貢献できたのかわかりませんが、このときの『仲間』を大切にす、『個』を持つという姿勢が今の私を作っていると思います。

さて、私は昨年滋賀県に入庁し、現在、保健所行政に携わっております。保健所での薬剤師の仕事はみなさん想像できないくらい多岐にわたります。私自身、人に説明する時、どう説明しようか悩みます。食品衛生、環境衛生、薬事衛生、犬・猫に関すること、etc大学の時には見たことも聞いたこともないような法律を所管し悪戦苦闘です。毎日目新しいことばかりで「慣れた、飽きた」というのは一切ありません。「これが薬剤師の仕事?」と思うことも多々あります。また、保健所ということで住民からの様々な苦情相談にも対応しなければなりません。対応次第では相手の逆鱗に触れることもありますし、県として批判を受けることにもなります。電話 1本とるにしても言葉を選び慎重です。上司や先輩方々に助けて頂き、何とか一年過ぎましたが、一人前になれる日はやってくるのだろうか...と思います。「公務員はいいね」と私自身よく言われます。確かに良い面もありますが、

市町村合併が進む中(滋賀県でも 10月には 3つの市が出来ます) 県の存在意義というのが問われており、都道府県合併というのに近い将来あることでしょう。公務員といえどもこれからは競争社会です。将来必要とされる人間となるためには人とは違う『個』を持つことが必要であり、私自身の課題でもあります。

自分の生まれ育ったところで働けるというのは幸せなことだと思います。新採研修では自転車で琵琶湖を一周し、滋賀県の良いところ、課題を肌で感じました。職業柄、美味しい飲食店や、観光名所を知ることでも出来ました。仕事や研修を通じて滋賀県中に仲間が出来ました。これからも人とのつながりを大切にし、将来、人に必要とされる人間となれるよう日々勉強していこうと思います。



2004年度京薬祭迫る !!

本年度も京薬祭の開催時期が近づいてまいりました。

今年は、本学創立 120周年の記念すべき年であり、実行委員会においてもスタッフ全員、例年以上に素晴らしいイベントとするため、多忙な学生生活の合間を縫って準備に奔走しております。

多数の方にご参加いただきますよう、ご協力をお願い致します。(学生課)

<実行委員長より一言>

本年は、例年と異なり初日に体育祭を行いますので、従来とは少し違った雰囲気楽しんでいただけたらと思います。

また、子供から大人まで、幅広く楽しんでいただけるような企画を用意して、皆様のご来場をお待ちしております。

期 間 10月 29日(金)~ 10月 31日(日)
10月 29日は体育祭

メインテーマ EVOLUTION

サブテーマ 12年目の飛躍

主な企画内容 フリマ・バザー、健康相談、福引、カラオケ、バンドLIVE演奏、クイズ・ゲーム、他